

ダム事業の名称	東大芦川ダム
所在都道府県、水系、河川名	栃木県、利根川水系、大芦川
事業者名	栃木県
事業の概要・問題点・中止に至る経過・中止理由・その後の状況（自由記述・図表等の貼り付け可）	<p>事業の概要（規模、目的、大まかな変遷など）</p> <p>諸元：重力式コンクリート、総貯水容量 983 万 m³、有効貯水容量 901 万 m³、堤高 82m、堤頂長 223m、堤体積 295 万 m³、流域面積 23.4km²、湛水面積 0.42km²</p> <p>概算事業費：310 億円（2003 年度までに 32.55 億円消費）</p> <p>事業の目的：洪水調節・流水の正常な機能の維持・上水道用水（鹿沼市 0.2m³/秒）。本来の目的は水がたまりにくい南摩ダム（思川開発事業の中心施設。事業者は水資源機構）の補完ダムか（1998 年 8 月、思川開発建設所長が「将来的には南摩ダムと東大芦川ダムは水資源開発公団が一括管理することになるだろう」と説明）。</p> <p>事業の問題点（必要性の評価、自然破壊、地域社会破壊など）</p> <p>[必要性の評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> 大芦川は掘り込み河川で、広い浸水区域は想定できず、治水上の必要性がない。 県は、大芦川流域を水防危険箇所指定していなかった。 東大芦川ダムのパンフレット（1996 年）に「大芦川の洪水被害」として旗川（佐野市）の写真を使い、県は大芦川の被害実績の捏造に苦勞していた。 東大芦川ダムのパンフレット（1999 年）には、「大芦川は、永年にわたり出水被害に悩まされてきました。」と書かれていたが、鹿沼市総合計画（計画期間 1996～2010 年）には、「（大芦川など）市内を流れる一級河川は治水上比較的安全な河川であり」と記載されていた。 治水計画規模 1/80、基本高水 1,500m³/秒（北半田橋）は過大。計画雨量 314mm に相当する洪水はせいぜい 1,200m³/秒であり、計画高水と等しいのでダムは不要。歴史的にも足尾銅山操業のための森林乱伐の結果大水害（1902 年）を経験後、住民は川から離れて家を建て、県が造林事業を進めるに従い、護岸崩壊程度の被害しか起きなくなっていた。 1996 年時の鹿沼市の水需要予測（2010 年に人口 11 万人、1 日最大給水量 50,500m³/日、1 人 1 日最大給水量 561L）は過大。上水道対象の鹿沼地区の人口は 2000 年 12 月の 94,378 人をピークに減少の一途をたどり、2014 年 8 月には 90,884 人となる。地下水源（96 年当時の保有水源 38,100m³/日）だけで足りていた。 鹿沼市上水道では、冬期に水源井戸の水位が低下し、減圧給水することがあったが、2000 年以降はそのような障害はなくなった。 <p>[自然破壊]</p> <ul style="list-style-type: none"> ダム予定地周辺のモリアオガエル、ヤマネ、クマタカ等希少種が生息する豊かな生態系を破壊する。 <p>[地域社会破壊など]</p> <ul style="list-style-type: none"> 水没 4 戸、直下流 10 戸の地域社会を破壊する。 関東随一と言われる大芦川の溪流美を失う。 流量減少、水質悪化、産卵場所の減少によりアユ、ヤマメ、イワナ等漁業資源を失う。 流量減少により流域の地下水涵養量が減り、鹿沼市上水道の水源井戸の障害を招く。 県の負債を増やし、鹿沼市の水道料金の値上げを招く。

中止に至る経過（構想段階から中止に至るまでの経過）

- 1973年4月 予備調査開始
- 1983年4月 実施計画調査着手
- 1992年4月 建設事業着手
- 1993年3月 県と鹿沼市が東大芦川ダム建設工事に関する基本協定を締結
- 1993年4月 地元自治会による「東大芦川ダム地域整備協議会」発足
- 1996年4月 東大芦川ダム建設事務所を開設
- 1998年12月 県公共事業再評価委員会が事業継続を承認
- 1999年3月 西大芦漁協がダム反対を表明
- 2000年3月 東大芦川ダム地域整備協議会と損失補償基準調印、用地買収着手
- 11月 上流域住民が「東大芦川ダム建設反対期成同盟」の結成を決議
- 11月 ダム事業の見直しを掲げた福田昭夫氏が知事当選
- 12月 知事が県議会において「事業の全面的見直しを行う」と答弁した。
- 2001年1月 東大芦川ダム建設事業検討会（学識4人、地元4人、鹿沼市助役、県土木部技監）を設置
- 1～5月 思川開発事業等検討委員会（庁内組織）設置（4回の会議を開催）
- 2月 東大芦川ダム建設事業検討会が県土木部長に報告（「意見集約できず。」）
- 3月 国土交通省が補助事業費の執行を保留
- 5月 知事が「大芦川全体を検討し見直す」との対応方針を発表
- 2002年2月 大芦川流域検討協議会設置（学識6人・地元8人・会長、7回の会議を開催）
- 3月 面積で75%の用地取得済み。
- 2003年5月 大芦川流域検討協議会答申（治水は両論併記。委員7人が「総合判断としては中止が望ましい」）
- 5月 栃木県東大芦川ダム検討委員会（庁内組織）設置（7月まで5回の会議を開催）
- 6月 知事が県議会でダムの代替案を提示
- 7月 知事が中止と代替案を正式に発表
- 8月 県公共事業再評価委員会開催
- 9月 県公共事業再評価委員会答申（中止案を承認）

中止理由（起業者が挙げる中止理由と、私たちが捉えている中止理由）

【起業者】

- 地権者の反対による用地取得の困難やクマタカの生息への影響回避のため完成時期が大幅に遅れることにより、治水対策の効果の発現が遅れ、利水にも支障を来す。
- 治水は、段階的な河川改修で対応が可能であり、費用も少ない。（ダム案がダム310億円＋河川改修25億円＝335億円に対し、代替案は河川改修70億円＋鹿沼市水道用水43億円＋不特定用水50億円＋ダム建設既投資分等33億円＋その他（用地再取得等）5億円＝201億円）……片山善博・元鳥取県知事を見習って職員に算出させた。
- 鹿沼市は0.2m³/秒の表流水を必要とするが、思川開発事業で対応できる。
- 県の財政状況が厳しい。

【思川開発事業を考える流域の会】

- 元々福田昭夫知事は、今市市長時代から南摩ダムと東大芦川ダムを、容量を縮小した南摩ダムに統合することが持論だった。
- 地元西大芦漁協が環境資源の喪失に危機感を抱き、自治会を巻き込み活発に活動した。
- 福田昭夫知事が当初の立候補の際に、世論の盛り上がりを受けて、東大芦川ダムの全面見直しを公約に掲げた。

- 知事が大芦川流域検討協議会の構成をダムに推進・反対の委員を同数としたため、両論併記の答申となった。
- 2000年11月の知事選時にダムと県庁舎の全面見直しを公約とした福田氏は、県庁舎については、ほとんど見直しができなかったため、2期目の選挙のためにもダム事業の見直しについては確実な成果を世論に示す必要があった。
- ダムの目的は、治水上も利水上も捏造なので、中止しても住民が困らなかった。

中止後の状況（当初目的についての現況、地域生活再建、河川・地域環境の現状、ダム等計画復活の動きの有無など）

- 大芦川流域に大きな水害は起きていない。
- 治水は、1/80計画規模は変えないが、1/50規模で25年程度をかけて河川改修（70億円）を3段階で進めながら、1/80計画規模が必要か検討していくこととする。
- 流水の正常な機能の維持については、南摩ダムに係る県の確保した水道用水を振り返ることとする。経費は国と県で負担。
- 水辺公園（2箇所）、基幹林道前日光線、もみじの里公園を整備することとする。
- 鹿沼市の利水については、同市が思川開発事業に単独参画し、その建設負担金については、東大芦川ダムについての建設負担金額であった15億8100万円を超える額を県が負担するとの協定を県市で締結。
- 河川改修に併せて無駄としか思えない砂防ダムが建設された。（目的：上流からの土砂流出の抑制を図り、堆積土除去の実効性を確保する。事業期間：2004～2008程度。事業費：約10億円。）
- 鹿沼市の上水道は地下水源だけで足りている。1日最大給水量は1995年度以降減少傾向にあり、2010年度の推計値50,500m³/日は大きく外れ、実績値は30,678m³/日。2013年度の実績値は29,104m³/日にすぎない。減圧給水も起きていない。
- 移転対象の14世帯は、1世帯を残し鹿沼市や宇都宮市へ移転した。
- クマタカを頂点とする生態系は維持されていると思われる。
- 今のところ復活の動きは見えないが、思川開発事業の完成を阻止できなかった場合には、南摩ダムに水がたまらないので、水をためるためには、補完ダムとして復活の動きが出ると思われる。

中止獲得までに特に苦労したこと

- 二つのダムがからんでおり、知事の方針が東大芦川ダムは中止、南摩ダムは縮小継続だったので、運動団体の一体感が阻害された。
- 大芦川流域検討協議会では、反対派の委員と住民の全体的な共闘・連携が十分にできなかった。
- ダム反対署名に対抗して鹿沼市が鹿沼商工会議所に働きかけ、ダム推進署名運動を主導して、約68,000筆を知事に提出し、反対署名を帳消しにしようとした。反対派は、署名簿の閲覧申請を行い、虚構の署名であることを暴こうとしたが、閲覧は拒否され有効な対抗策がとれなかった。

中止獲得に至るまでの創意工夫

- 各団体が知事への署名簿や要望書の提出など主体的に運動した。
- 西大芦漁業協同組合が約 1300 人の釣り人にアンケートを実施した。87%がダム反対。
- 大芦川清流を守る会がダム反対の立て看板を設置した。
- 講演会・シンポジウム開催、公開質問、署名運動等を行った。
- 鹿沼市内のダム反対 8 団体が約 34,365 筆、市外住民を含めて約 42,804 筆の反対署名（南摩ダムと東大芦川ダムに反対）を集めた。
- 立木トラストに 1,000 人以上が参加した。
- 東大芦川ダム建設反対期成同盟が用地 4 筆を会員 26 人で共有登記した。
- 会員が大芦川流域検討協議会の委員と共同し、治水の費用対効果分析を独自に行い、県の分析の誤りを指摘し、記者会見を行った。委員が協議会でも発言した。
- ブックレットを作成し県民への周知を図った。「ムダなダム”はいらない～思川開発事業の Q&A～」(1998 年)、「ムダなダム”はいらない PART II～思川開発事業の Q&A～」(2001 年)、「真の文明は川を荒らさず」(1998 年)、「大芦川緑のダム」宣言」(2003 年、中止決定後)
- 立木トラストの会が清流大芦川を PR するため絵はがきを作成した。

中止獲得までに共闘した団体及び協力を得た団体

東大芦川ダム建設反対期成同盟、立木トラストの会、南摩ダム絶対反対室瀬協議会、大芦川清流を守る会、西大芦漁業協同組合、ダムに反対し鹿沼の水を守る会、鹿沼市民の会、鹿沼の清流を未来に手渡す会、森と水を守るネットワーク、今市の水を守る市民の会、栃木の水を守る連絡協議会、日本野鳥の会栃木県支部、渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会、市民オンブズパーソン栃木、「知事は公約を守れ」県民実行委員会、水源開発問題全国連絡会

当時の団体名	思川開発事業を考える流域の会、ダム反対鹿沼市民協議会
現在の団体名	思川開発事業を考える流域の会、ダム反対鹿沼市民協議会
連絡担当者	高橋
住所（郵便番号から）	
電 話	
F A X	
電子メール	
ホームページ	http://kanumanodamu.lolipop.jp/HigashiDam/HigashiOashiDam.html